情報共有基盤をSaaSで

東京ガス

1万2千人が利用
セキュリティの担保実現

東京ガスは、情報セキュリティの強化とコストダウンを目的に、組織間のコミュニケーション、コラボレーションを活性化するグループウェアとして、日立製作所のSaaSメニューの1つである「情報共有基盤サービス―コラボレーション機能」を採用した。昨年11月から部分稼働を行い、今年4月の全面本稼働を目指す。日立のデータセンターを活用したサービスのため、安全性などのセキュリティが高まっている。

日立のクラウドサービスを活用

今回のSaaS活用は、東京ガス本社と各事業拠点、同社のデータセンターをつないで1万2千人が共有するもので、組織間のコミュニケーションとコラボレーションを活性化するグループウェアシステムとして稼働する。

導入に当っては、同社の情報子会社であるティーシー情報ネットワークと日立が共同で行っている。昨年11月に段階的に導入、サービスが開始され、今年の4月に東京ガスとTG情報ネットワークの職員を対象とした本格サービスを開始することとなる。

採用した日立の情報共有基盤サービス―コラボレーション機能は、同社のクラウドソリューション「ハーモニアス・クラウド」のSaaSメニューの1つで、ポータルからコミュニティ管理、メール、スケジュール管理、電子会議、電子掲示板、共有ファイルなどの機能を持つ。

これまで日立グループ約150社20万人規模での利用実績と運用ノウハウを蓄積しており、東京ガスにとって安定運用、安定稼働が期待できるサービスとなっている。

また、日立のデータセンターは堅牢性の高い構造物となっており、指静脈認証やICカードによる入退室管理システムといったセキュリティ対策を実現すると同時に、第三者認証であるプライバシーマークやISMSに準拠した運用で信頼性を確保している。

東京ガスは、こうしたSaaSによる情報共有基盤を活用することで、セキュリティを担保するとともに、それらシステム構築と運用、メンテナンス、IT資産の保有といったことにかかるコストなどを大幅に削減できるようになる。

これにより、職員は多くのメンバーが参加するワークプレースの作業効率が高まるだけでなく、ITシステム担当者の負荷軽減、経営層にはTCO低減への期待が生れるとしている。

社内IT基盤を統合
仮想化により80％減に

ワンズネットワンシステムズ

ネットワンシステムズは、社内IT基盤を仮想化しワークスタイルを改革し、セキュリティを強化、自社で実際に使用し、ユーザーへ紹介するリファレンスケースとして活用する。

プロジェクトは、仮想化による物理サーバー・ストレージの統合、仮想デスクトップ環境を構築、ITIL準拠の統合運用管理システムで統合管理を目指した。

2009年4月からスタートし、業務系システムを2010年1月から、情報系システムは同年2月から、メール系システムは4月から順次本番稼働した。

仮想化統合システムは、業務系、情報系ともに成功した。また、システム基盤環境引渡しまでのリードタイムも、統合前の2―3カ月から統合後は1―2週間程度で引渡し可能となった。

プロジェクトは328ユニットから83ユニットに（86％減）、DBサーバーは12台から2台に（83％減）、消費電力は7万wから1万3500w（81％減）

認証サービスを開始
NTTデータのクラウドで

十六銀行

岐阜市に本社を置く十六銀行は、同行が提供しているインターネットバンキング「じゅうろく法人インターネットサービス」の認証システムに、NTTデータの不正取引防止セキュリティ強化対策ソリューション「ビズエモーションOTP」を採用し、認証サービス「ワンタイムパスワード」を開始した。

既存の固定パスワードに加え、ワンタイムパスワードが提供する60秒ごとに変化するパスワードを利用することでセキュリティを強化し、顧客に安心してじゅうろく法人インターネットサービスを使用してもらう。

NTTデータのビズエモーションOTPは、インターネットの金融取引時にフィッシングやスパイウェアなどによる不正取引を防止するもので、RSAセキュリティのワンタイムパスワードソフト「RSAセキュアID」を用いたクラウドサービスとなっている。

ワンタイムパスワードは、60秒ごとに任意のパスワードを利用者に配布したキーホルダー型のトークンに表示する。ランダムな数字と本人のパスワードの2つを用いて本人認証を行うため、利用者は安心してサービスを受けることができる。

クラウド利用に手引
チェックシートで自己確認

IPA（情報処理推進機構）は、中小企業における「クラウドサービスの安全利用の手引き」と、そのために必要なクラウド事業者からの情報開示に参考となる文書を公開した。

中小企業にとって、クラウドサービスをどの業務にどのように活用すべきか、またセキュリティはどの程度まで確保すべきかなど、単独では企画や判断が難しい部分がある。そのため、「クラウドサービスの安全利用の手引き」では、クラウドサービスを安全かつ有効に利用するための準備や確認のための項目を整理し、解説している。

手引きは、クラウドコンピューティングに関する解説とメリット・デメリットの要点を説明しているほか、活用事例や利用イメージ、クラウドサービス活用による経営上の課題解決のヒントなどが公開されている。

利用者側の利用準備は、「クラウドサービスの特徴を理解した担当者を社内に確保したか」や「サービス停止などに備えて、重要情報を手元に確保して必要な時に使えるための備えはあるか」など4項目に分類されている。

提供側の条件については、「サービスの稼働率、障害発生頻度、障害時の回復目標時間などサービスレベルが示されているか」や「サービスの使い方がわからないときの支援（ヘルプデスクやFAQ）は提供されているか」など6つの項目が含まれている。

クラウドサービスの利用を検討する際は、これらの項目について、確認することで、安心・安全な利用を促すことになる。

クラウドサービスチェックシート

クラウドサービスの利用範囲についての確認事項		
1	利用範囲の明確化	クラウドサービスでどの業務、どの情報を扱うかを検討し、業務の切り分けや運用ルールの設定を行ったか
2	サービスの種類とコスト	業務に合うクラウドサービスを選定し、コストについて確認したか
3	扱う情報の重要度	クラウドサービスで取扱う情報の管理レベルについて確認したか
4	ポリシーやルールとの整合性	セキュリティ上のルールとクラウドサービスの活用の間に矛盾や不一致が生じていないか
クラウドサービスの利用準備についての確認事項		
5	担当者	クラウドサービスの特徴を理解した担当者を社内に確保しているか
6	ユーザー管理	クラウドサービスのユーザーについて適切に管理できるか
7	パスワード	パスワードの適切な設定・管理は実施できるか
8	データの複製	サービス停止などに備えて、重要情報を手元に確保して必要な時に使えるための備えはあるか
クラウドサービス提供条件についての確認		
9	事業者の信頼性	クラウドサービスを提供する事業者は信頼できる事業者か
10	サービスの信頼性	サービスの稼働率、障害発生頻度、障害時の回復目標時間などのサービスレベルは示されているか
11	セキュリティ対策	クラウドサービスにおけるセキュリティ対策が具体的に公開されているか
12	利用者サポート	サービスの使い方が分からない時の支援（ヘルプデスクやFAQ）は提供されているか
13	利用終了時のデータの確保	サービスの利用が終了した時の、データの取扱い条件について確認すること
14	契約条件の確認	一般的契約条件の各項目について確認すること

リアルタイム運行管理を導入
GALAXY Tabで構築

名神急送

徳島県を中心に事業を展開する総合物流事業者の名神急送は、NTTドコモのタブレット端末「GALAXY Tab」（写真）を車両の運行管理などに活用している。

運行管理システムをPCで運用していた際は、外出先や休日の自宅などで緊急時に運行状況を確認する必要が生じたときなど、端末の起動時間の問題からリアルタイム性の面で支障が生じていた。

以前も同社ではスマートフォンの導入を検討したが、画面の小ささから見送りとなっていた。GALAXY Tabの場合、起動時間の早さに加え、PCと同じ表示範囲を持っているタッチ式の7インチディスプレーの搭載で利用しやすく、NTTドコモのサービスエリア内で無線よりも広いエリアでサービスを利用できるといった諸条件から、導入に至った。

運行管理システムのほかに、各事業所にWebカメラを設置して倉庫の状況や車両の動きを常時監視しているほか、業務でグループウェアも利用している。現在は管理業務が中心だが、今後は営業業務への適用も予定している。

フロント業務を一新
FJMのSaaSを活用

網走セントラルホテル

北海道網走市内でシティホテルを営む網走セントラルホテルは、従来のフロント業務システムが旧式化していたことから、顧客管理機能の強化などを図るため、富士通マーケティング（FJM）が提供するクラウド型サービスの「GLOBIA smart（グローバスマート）ホテルSaaSサービス」を導入、本格稼働に入った。

同ホテルは客室数が96室に加え、結婚式場と15室500名収容の宴会場を備えた網走市内唯一のシティホテルとして、企業や団体の宿泊型セミナーや懇親会などコンベンション、各種エキシビションにも対応している。

顧客には10年、20年と継続してリピート利用している利用者も多く、そうしたリピート客への対応と、新たなリピート客の確保のため、フロント業務システムの見直しを行っていた。

採用したホテルSaaSは、利用者の名前を確認した段階で利用履歴が画面に表示され、フロント担当者全員がリピーター顧客に感謝の声をかけられるようなおもてなしのサポート機能や、新システム導入時の短期操作研修、そして富士通という信頼性から導入を決めた。導入支援は北見コンピューター・ビジネスが担当した。

新治験管理を導入
クラウド環境の活用で

シミック

医薬品の開発を受託しているシミックは、東南アジアにおける事業拡大を目的に、SaaS型の新治験管理システム（CTMS）を導入した。

新治験管理システムは、ウィプロ・リミテッドと日本オラクルの技術を用いたクラウド環境を活用しており、ウィプロの治験管理システム「ウィプロ・ラピッド・テイル」とオラクルの治験向けアプリケーション「シーベル・ケミカル」をベースに構築された。

これにより、アジア地域で進行する治験の情報や医薬品の開発に伴う費用の一元管理を実現するとともに、各モニターが各種規制、手順、プロトコルなどに沿って、治験施設への訪問と報告などをより正確なプロセスで実行することができる。

新システムは、「21CFRパート11」と呼ばれる米国連邦規則21条第11章電子記録・電子署名に関する規制条例にも準拠し、コンプライアンス強化への高い効果が期待される。

本部と店舗間の情報共有にクラウド

ノジマ

ノジマは、本部店舗間のコミュニケーション用IT基盤として、ネクスウェイの提供する多店舗運営支援クラウドサービス「店舗matic」を採用した。

首都圏や関東甲信越地区に100店舗以上を展開している同社は、本部から各店舗に業務指示をメールとグループウェアで行っていたが、それが確実に実行され、成果を把握して次のアクションを取っているかという PDCAの確認が課題となっていた。

クラウド環境を構築
デスクトップを仮想化

金沢工業大学

金沢工業大学は、学生が利用するクラスルーム端末向けに日本IBMのデスクトップ・クラウドソリューションを採用した。

同大学は、昨年12月からデスクトップ・クラウド環境の企画と設計を開始している。情報学部演習科目を対象に学生が授業で利用する演習用アプリケーションの利用環境と、学内に設置してある情報検索端末の仮想化を目的とした約40台のデスクトップ・クラウド環境を4月に構築した。

現在、学生の教育機会向上と、教員およびIT運用担当者の負荷軽減を目的としてデスクトップ・クラウド環境の構築を進めている。これまで演習室の専用PCのみとなっていた情報演習環境が仮想デスクトップにより利用可能になり、場所や時間の制約が無い教育環境を実現した。

また、仮想デスクトップを提供するデスクトップ・クラウド環境を活用することで、デスクトップ環境のマスターイメージ配布や確認作業の大幅な削減につながり、即日で環境が更新できると見込んでいる。今後は導入効果の検証を行い、デスクトップ・クラウド環境をすべての情報演習用端末約300台やCAD端末160台にも拡大していく。

FUJITSU

これからの“上昇企業”に、
きらっと、クラウドを。

GLOVIA smartから、会計『きらら』誕生。

新登場　富士通の国産ERPパッケージGLOVIA smartが、クラウドでさらに進化！料金も、月額10,290円（税込）から。

豊富な導入実績の国産ERPパッケージGLOVIA smartの特長を継承しつつ、さらに進化したのが『きらら』。
業務アプリケーションソフトを、クラウドで提供する新しいサービスです。自社サーバ設置も不要のため、すばやく会計業務が行えます。
月額10,290円（税込）［9,800円（本体価格）］からと、低価格も実現。今、本業へ経営リソースを集中したいと考える“上昇企業”に
使っていただきたい、これからの会計システムです。成長を続ける企業のために、『きらら』が新しい経営をサポートします。

•GLOVIA smart は、中堅・中小企業向け（年商500億円未満）ERPライセンス売上高シェアNo.1
（エンドユーザー渡し価格ベース、GLOVIA-Cを含む。矢野経済研究所調べ 2009年12月現在）

「GLOVIA smart 会計 きらら」
ITpro EXPO AWARD
2010 優秀賞受賞

すばやく　短期間で、伝票入力を開始
むだなく　必要な分だけ、SaaSで利用
だいかつやく　他システムと、仕訳データ連携

そして、あんしん。
富士通グループのデータセンターが、守ります。

『きらら』発売キャンペーン実施中！
くわしくは 富士通きらら で 検索

株式会社富士通マーケティング
http://jp.fujitsu.com/fjm/

富士通コンタクトライン 0120-933-200
受付時間 9:00～17:30（土・日・祝日・年末年始を除く）

クラウドで、会計に上昇気流を。
GLOVIA smart 会計 きらら

shaping tomorrow with you
社会とお客様の豊かな未来のために